

いわき 農林水産 ニュース

ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま

令和8年 7月号 Vol.257

発行日 2026/7/30

- 01 大浦小学校で「生きもの学習会」を開催
- 02 各種取組の実績（6～7月分）
- 06 お知らせ
- 06 いわき地方の農林水産物モニタリング検査結果（6月）
- 06 いわき地方の出荷制限等品目
- 07 ヒラメ種苗放流
- 07 まちメディア8月号 掲載記事
- 08 ならではグルメレシピ紹介
- 09 あとがき

大浦小学校で「生きもの学習会」を開催

6月19日(金)

いわき市立大浦小学校の4年生を対象に、「アクアマリンふくしま」の職員を講師に迎え、「生きもの学習会」を実施しました。

この学習会は、「食・命の大切さ」や「農業・農村地域の大切さ」、「自然環境の大切さ」への理解を深めてもらうことを目的とした「ふくしまの農育」生きもの調査事業の一環として実施したものです。

当初は、小学校周辺の田んぼなどで、生きものを採集し、種類や特徴を調べる予定でしたが、開催数日前に学校周辺でツキノワグマの目撃情報があったことから、安全を最優先に考え、屋外での調査を中止し、校内での学習に変更となりました。

児童たちも最初はがっかりしていましたが、「アクアマリンふくしま」から数多くの生きものを持参していただいたため、とても楽しく充実した学習会となりました。

自分たちの周辺に生息する生きものの見本として、メダカやドジョウ、カエルやオタマジャクシ、ゲンゴロウ、タガメ、アメンボ、ヤゴ、ヘビなど、田んぼや水辺に生息するさまざまな生きものが紹介されました。

児童たちは、実際に動く生きものを間近で観察しながら、講師の説明に熱心に耳を傾け、興味深そうに学習に取り組んでいました。

参加した児童からは、「アクアマリンふくしまに行って、もっとたくさんの生きものを見てみたい」といった感想も聞かれ、自然や生きものへの関心を一層深める機会となりました。

今後も、農業・農村や自然環境の大切さを伝える取組を通して、子どもたちの豊かな学びを支えてまいります。

(農村整備部)



▲アクアマリンふくしまの講師による解説の様子



▲生きものを熱心に観察する児童たち

ふくしま食育実践サポーターを派遣

6月16日(火)・18日(木)

県では、食育体験や交流、食生活改善、地域の食文化や郷土食の伝承等の活動を先進的に実践する方々を「ふくしま食育実践サポーター」として登録し、学校や地域団体等が実施する子ども等を対象とした食育活動を支援するため、要請に応じて派遣しています。

6月中旬に、サポーターである合同会社七浜果樹が、市内の2校の園児に対して食育活動を行いました。

6月16日には、ブルーベリーファームいわきで梅香保育園の園児を対象に活動を行い、園児たちはブルーベリーの生長過程について話を聞いた後、農園でブルーベリー摘みを体験しました。その後は農園特製のブルーベリーソースをかき氷に乗せて食べました。ブルーベリーを初めて食べる園児や、木から摘み取るのが初めての園児もあり、大変興味深そうな様子でした。



▲ブルーベリーについて話を聞く園児



▲ブルーベリーを摘み取る園児

6月18日には、平第一幼稚園で園児を対象に食育活動を行いました。園児たちはブルーベリーの苗木を見ながら、生長過程や栽培方法等について話を聞き、「水はどのくらいあげると良いの?」「ブルーベリーはどのように食べると美味しいの?」等の質問をしていました。続いてブルーベリーや、ブルーベリーソースを使用したかき氷の試食を行い、初めて食べた園児がその甘さに驚く様子もありました。

今回、園児たちはブルーベリーファームいわきの苗木を2本受け取り、今後は自分たちで育てていく予定です。



▲ブルーベリーについて話を聞く園児



▲ブルーベリーに興味津々な園児



▲園児たちが育てる2本の苗木

ふくしま食育実践サポーターの派遣にご関心のある方はこちらまでお問い合わせください。

■お問い合わせ

いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課 TEL : 0246-24-6197 FAX : 0246-24-6196

■申込書ダウンロード (福島県 いわき農林事務所ホームページ)

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/iwnorin-k26404.html>

■福島県農産物流通課ホームページ

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035a/supporterseido.html>

(企画部)

いわき市内団共長連絡協議会総会及び事業推進会議

6月16日(火)

いわき市中央台公民館において、いわき市内団共長連絡協議会の第43回通常総会及び事業推進会議が開催されました。

当協議会は、いわき市内の団地共同森林施業造林組合の長が構成メンバーとなり、林業先進地の視察研修や、山火事防止の啓発活動、いわき市森林組合の林業コンクールへの参加など、いわき市各地域の林業を推進するために活動されています。

通常総会の後に併催された事業推進会議では、当所森林林業部の職員が令和8年度の国の森林整備事業と、「ふくしま森林（もり）づくり県民税」を財源とした県の森林環境基金森林整備事業第5期（令和8～12年度）の初年度において改正となった内容と実施上の留意事項、スギ花粉発生源対策や森林施業の低コスト化といった林業関係施策などについて説明を行いました。

組合員の高齢化が課題であるものの、変更内容について質問の声が上がるなど、造林組合長の皆さまの地域林業に対する熱意が感じられる会議となりました。（森林林業部）



▲開催状況



▲職員による事業説明

高校生商品開発プロジェクト

6月24日(水)

福島県立小名浜海星高等学校で産学官連携による「商品開発プロジェクト」の初回となる授業が行われました。

このプロジェクトでは、福島県産・いわき市産の農林水産物の消費拡大を目的として、同校普通科2年生が株式会社貴千及び株式会社マルト商事と連携し、商品開発を行います。

当日は、いわき市役所及び福島県いわき農林事務所から、いわき市の農林水産物、関連する取組や福島県における地域産業6次化の取組等について講義を行いました。

今後授業の一環として商品開発を進めていくとのことです。

高校生の皆さんのアイデアが形になっていく過程を楽しみにしています。

（企画部）



▲講義中の様子



▲集合写真

第1回いわき地域新農業人レベルアップ塾

6月30日(火)

新規就農者が経営ノウハウや栽培技術を習得し、目標達成に向けてレベルアップするとともにお互いに交流を図ることを目的に「いわき地域新農業人レベルアップ塾」を県いわき合同庁舎で開催しました。

今年度1回目は、福島県農業総合センター生産環境部作物保護科の堀越科長が「野菜の病害虫防除のポイント」をテーマに講演し、新規就農者や関係機関等を含め27名が参加しました。

参加者からは、土壌還元消毒のやり方やトマトの病害の発生しやすい条件等について積極的な質問がなされ、実践で役立つ知識や技術への理解を深める機会となりました。

2回目は、7月29日(水)に「農業機械の点検整備」をテーマに、JA福島さくら夏井営農経済センターで開催します。刈り払い機の実演やVRを用いたトラクター事故体験を行う予定です。新規就農者だけでなく、興味がある農家の方は是非御参加ください。

(農業振興普及部)



▲講演の様子

園芸振興プロジェクトいわき地方園芸振興推進会議

7月6日(月)

「福島県園芸振興プロジェクトいわき地方園芸振興推進会議」を開催し、いわき市、JA、JA全農、農林事務所などの関係者が、今年度からの取組について意見交換を行いました。

県では、農業の成長産業化を推進するため、令和3年度から5年間、収益性の高い園芸品目10品目について園芸振興プロジェクトを策定・振興したところ、生産額は震災前の水準まで回復しましたが、園地継承の促進、高温・干ばつ対策、新たな担い手の育成などの課題が残りました。

そこで、令和8年度からは、対象品目を17品目に拡大した「福島県園芸振興プロジェクト(第2期)」をスタートさせ、いわき地方では従来の「日本なし」「トマト」「りんどう」「トルコギキョウ」に、「ねぎ」「ピーマン」「いちご」を加えた7品目でプロジェクト計画に取り組むことといたしました。

会議では、本プロジェクトで取り組む内容や、いわき地方における各品目の「強み」や「弱み」について、活発な意見交換を行い、今後の園芸振興に向けた連携強化を確認しました。

当所では、引き続きこれらの品目を中心に、園芸振興を強化してまいります。

(農業振興普及部)



▲会議の様子



いわき地域農業技術革新推進協議会

7月6日(月)

いわき地方のスマート農業の推進に向け、「いわき地域農業技術革新推進協議会」を開催し、いわき市、JA、JA全農、農林事務所などの関係者が意見交換をしました。

いわき地方では、令和7年度から遠野地区でスマート農業中山間地域モデル実証事業により、省力的な水管理を実証していることに加えて、今年からは夜間灌漑できる機材の導入により、白未熟粒防止に取り組みます。

また、スマート農業先導モデル構築事業では、施設園芸のトマトにおいて環境制御技術を活用したモデル構築をしていきます。併せて、スマート農業の推進に向け、県のふくしま型農業DX事業を拡充した事業について、情報提供しました。

当所では、引き続き、スマート農業技術の普及推進に努めてまいります。
(農業振興普及部)



▲協議会の様子

特定家畜伝染病対策いわき地方連絡会議

7月7日(火)

県いわき合同庁舎において、「特定家畜伝染病対策いわき地方連絡会議」を開催しました。

当会議は、地方対策本部業務の円滑な調整や連絡を目的に実施しており、関係者が特定家畜伝染病の発生状況等について情報共有を行うとともに、発生の際の防疫措置の体制及び初動対応について説明をしました。

今回の会議及び予定している班別説明会や防疫演習を通じて、関係者が役割を確認し、万が一の発生時にも迅速かつ的確な対策がとれるよう一層の連携を図ってまいります。
(農業振興普及部)



▲会議の様子

いわき地方GAP推進協議会

7月10日(金)

県いわき合同庁舎において、今年度1回目となる「いわき地方GAP推進協議会」を開催し、株式会社平果、株式会社マルト商事、いわき市、JAとともに、管内のGAP推進状況や本年度の活動計画、GAP推進の課題について協議しました。

出席者からは、「イベント以外でも消費者の認知度を上げていく必要がある」「GAPは経営改善に有効な方法で、特に大規模経営体に推進していくべき」との意見があがりました。

当所では、引き続き、関係機関と連携して、GAP認証取得を支援するとともに、GAP農産物の生産量拡大と認知度向上に努めてまいります。
(農業振興普及部)



▲協議会の様子



いわき地方の農産物モニタリング調査結果（令和8年6月分）

□農林畜産物の検査結果

令和8年6月の農林畜産物モニタリングでは、7品目10検体を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。
内訳は（表1）のとおりです。

(表1)品目と検体数

バレイショ 1、菌床きくらげ（施設） 2、小麦 1、玄そば 1、はちみつ 1、牛肉 3、原乳 1
--

□海産魚介類の検査結果

令和8年6月の水産物モニタリング検査では、102検体の海産魚介類を検査し、全ての検体について放射性セシウムは検出されませんでした。

いわき地方の出荷制限等品目

令和8年6月末現在、いわき地方の農林畜水産物のうち、出荷制限等の対象となっている品目は（表2）のとおりです。

出荷制限等品目は、出荷・販売だけでなく、宿泊施設等での提供や加工用原材料として使用することもできません。また、自主検査等により基準値（100Bq/kg）以下であっても出荷・販売はできませんのでご注意ください。

(表2)農林畜水産物の出荷制限等品目（令和8年6月末日現在）

制限、自粛	区分	品目
出荷制限	山菜	たけのこ、ぜんまい、たらめ（野生のものに限る）、わらび（野生のものに限る）※1、こしあぶら
	きのこ	原木なめこ（露地）、野生きのこ※2
自粛	山菜	さんしょう（野生のものに限る）

※1 わらび（栽培）で出荷・販売できるものは、安全性が確認されたほ場で生産されたものに限り
（市内該当生産者24名のみ）
※2 野生きのこは、摂取も制限されています。



ヒラメ種苗放流

6月23日から7月3日にかけて、いわき市沿岸の5地区（久之浜、四倉、沼之内～江名町、小名浜、勿来）に約45万尾の『ヒラメ種苗（概ね10cm）』が放流されました。

海の生き物は限りがあり、無秩序に獲るだけでは減ってしまう一方です。福島県では「つくり育てる漁業（栽培漁業）」の一環として、各地区の漁業者の協力を得て、毎年継続的にヒラメ種苗の放流に取り組んでいます。

また、福島県の資源管理の取組として、ヒラメは規制により全長30cm未満の水揚げが禁止されているほか、いわき地区では漁業者の自主的な取組として、さらに厳しい全長40cm未満のヒラメの水揚げを制限するなど、高い資源管理の意識をもってヒラメ資源が利用されています。

「常磐もの」の代表である福島県産ヒラメを見かけた際は、ぜひご賞味ください。



▲ヒラメ種苗放流の様子

「まち・メディア」8月号 掲載記事

福島県いわき農林事務所

いわき市産の 「リンドウ」を紹介します！

7月中旬から11月にかけて、いわき市産のリンドウが出荷されています。

自然豊かな環境の中で生産者が細やかな管理を行うことで、高品質なリンドウが栽培されています。

凛と咲く青紫色の花は、見る人に爽やかさと落ち着きを感じさせます。リンドウ単体でも、他の花と組み合わせても、花瓶に飾ることで空間を上品に彩り、季節感を楽しむことができます。

お供え用としてだけでなく、近年は自宅用やギフトとしても人気が広がっています。落ち着いた色のため、老若男女問わず贈りやすい花です。

いわきの生産者が育てたリンドウを、大切な人に贈ったり、部屋等に飾って暮らしに彩りを添えてみてはいかがでしょうか。

花言葉をベースにして、こんな贈り方がオススメ！



- 高貴** 目上の方への感謝の気持ちを込めて
- 勝利** これから大会や試験等に挑む方への応援に
- 誠実** 結婚記念日や誕生日など、誠実な気持ちを込めて



生産者紹介

生産者からの一言

青紫以外にも、ピンクや白など、様々な色のきれいなリンドウを栽培しています。リンドウと様々な色や種類の花を合わせたブーケ等を作っていますので、贈り物等にぜひご活用下さい。



リンドウ生産者
矢内 安宏氏

販売店舗

- 新鮮やさい館 各店舗
- 産直市場 田舎んぼ
- 道の駅 よつくら港

長持ちさせるポイント！

- ▶ 水は毎日変え、花瓶を清潔に保ちましょう。
- ▶ 風通しが良く、涼しい場所に飾りましょう。
- ▶ 水につかる葉や古くなった花は摘みましょう。



高校生発！Iwakiならではのグルメをつくろう レシピ紹介

地元農産物の魅力を発信するため、市内の高校生と飲食店等が共同でいわきならではのグルメを開発する、「高校生発！Iwakiならではのグルメをつくろう」。

今回は令和7年度に応募があったレシピの中から、「しいたけとベーコンバジルパン」をご紹介します！

Recipe

No. 04

しいたけと ベーコンバジルパン



考案者：福島県立いわき光洋高等学校 1年 長瀬 叶穂（ながせ かのん）さん



材 料（2人分）

しいたけ	4個(70g)
ベーコン	50g
バジルソース(市販)	15g
強力粉	66g
砂糖	2g
ドライイースト	1g
水	40g
オリーブオイル	5g

つ
く
り
か
た

- しいたけとベーコンは1～2cmの角切りにする。
- 熱したフライパンでしいたけとベーコンを炒め、バジルソースで和える。
- ボウルに強力粉、砂糖、ドライイースト、水、オリーブオイルを入れ、混ぜ合わせてこねる。
- ③のパン生地に②を包むようにして、形をつくる。
- ④の上部にハサミで十字に切り込みを入れる。
- 200℃に予熱したオーブンで15～20分焼いて、完成。

調理時間：2時間30分

comment

男女問わず、幅広い年代の方々に、日常の中で小さな贅沢を楽しみたい時に食べてもらいたいと思い、「しいたけとベーコンバジルパン」を作りました。また、外はカリッと、中はふんわりと焼き上げて、どなたにでも食べやすい味、サイズにしました。見た目や香りなどで楽しめるようにも工夫しました。

レシピを参考に作ってみました！

しいたけとバジルソースの相性がばっちり 🍄 担当はオーブンを持っていないのでトースターで代用しましたが、外はカリッと中はふんわり美味しく焼きました！

十字の切り込みも、飾り切りをしたしいたけに似ていて可愛いですね。（担当 S.M）



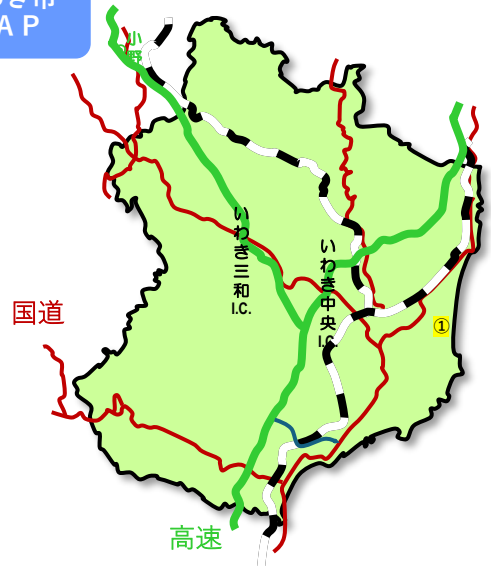
レシピ集はこちら！



今月号に掲載した場所はこちら！

①ブルーベリーファームいわき (P2)
平藤間字中谷地17-1

いわき市
MAP



あとがき



あとがき

梅雨も明け、夏本番の暑さが続いております。県内では比較的涼しいと言われるいわきも気温30度を超えることが増えてまいりましたので、皆様くれぐれもご自愛ください。

さて、今月号の表紙はブルーベリーです。ふくしま食育実践サポーター（詳しくはP2の記事をご覧ください）にも登録されているブルーベリーファームいわきの農園で撮影させていただきました。6月～8月が旬のブルーベリー。時期によって収穫できる品種も変わるので、食べ比べてみてはいかがでしょうか。

8月も本格的な暑さが続きますので、いわきの農林水産物を食べて元気に過ごしたいですね。（担当S.M）

◎ 皆様からのご意見・情報をお待ちしております。
福島県いわき農林事務所 企画部 地域農林企画課
〒970-8026 福島県いわき市平字梅本15番地
（県いわき合同庁舎 3階）
T E L (0246)24-6152 F A X (0246)24-6196
U R L <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36270a/>

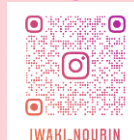


いわき農林水産ニュース

Follow me!
フォローお願いします！

Instagram・Facebookで
いわきの農林水産業の
旬な情報を発信中！

Instagram



Facebook



福島県農林水産部
公式YouTubeチャンネル
「1400のネットばらし」
動画はこちらから！

